

かけはしコラム

7月号

家庭と地域との心の架け橋を目指し、

子どもとの関わり方の一助となる言葉を発信していきます

～ 心のキャッチボール ～

「わーい、プール!!」子どもの元気な声が聞こえます。もうすぐ、夏休み…。家庭で過ごす時間が、増えます。子どもの育みには、「時間・量」も大切ですが、「質」の影響が大きいように思います。



子育て相談室のひと場面。

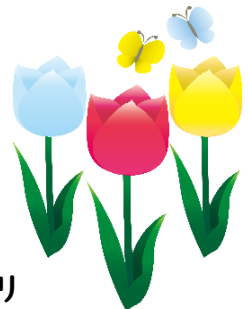
「こんなに、してあげているのに…」(母)とお母さんは肩をすくめてらっしゃいます。一方、子どもの話を聴いていると「わたしなんて、どうせ…」(子)と、あたかも愛されていないかのように…。お互いが、かみ合わないのでしょう。

“愛しみ”の思いを届けたい側、受け取りたい側、双方向の矢印があるように思います。

愛情の伝え方、伝わり方の「心のキャッチボール」は、本当に難しいです。親子だけでなく、時には先生と生徒の間でも、大人同士でもこの「キャッチボール」あるのではないのでしょうか。同じ言葉がけても、Aさん、Bさん、長男、次女で違うように…。

子ども支援の現場にいと、 “甘え上手な子とそうでない子”も分かります。また、一生懸命に子どものことを大切に思ったださるにも関わらず、見えたり、聞こえたりする部分では、子どもにそれが伝わらず、結果子どもとの関係性が上手いかずに苦しんでらっしゃる大人(親や支援者)の方にも出会います。

この心のキャッチボールのグローブ。いつも、開いているように思いません。時に“興味関心”“機嫌や気分”で、ミットが閉じたり、開いたりタイミングが、様々に違います。届ける側のタイミングのミスマッチが、愛着形成を難しくさせているのではないのかと思います。愛があるとかないとかでなく、愛情の伝え方、伝わり方をいつも考えながら相談を聴いています。わたしは、いつも、チューリ



ップに例えて考えます。子どもの心のグローブが開いたり閉じたりする絶妙なタイミングで(心の状態に合わせて)、大人がタイミングよくプラスのボール(肯定的な関り)投げると、子どももニッコリ、そして大人もニッコリ。お互いに心地よいですね。

子どもたちが、イキイキする学級の担任の先生やお忙しくて子どもと関わる時間が無くても、より良い関係を保たれる保護者さんに、共通することは「質の良い」関りです。

大人も一緒にですね…。お互いに“心地よい”“優しい”心のキャッチボール!

みんなが みんなで エンパワメント!! 素敵に夏をお過ごしください…